

令和 4 年 5 月 4 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19K02088

研究課題名（和文）医療のサービス産業化、女性医師増加の医師の働き方の課題と改善策についての研究

研究課題名（英文）Research on issues and improvement measures for work styles of physicians in the midst of the industrialization of medical services and the increase in female physicians

研究代表者

久保 真人（Kubo, Makoto）

同志社大学・政策学部・教授

研究者番号：70205128

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：2019年に医師を対象に実施した調査（回答者1261名）では、医師のバーンアウトのリスクは労働負荷に起因するのではなく、仕事を有意義と感じられないことに起因することがわかった。研究期間後半にCOVID-19によるパンデミックが発生し、パンデミック下の医師の労働環境に研究の焦点を変更した。COVID-19重点医療機関に勤務する161人の医師を対象に実施した調査では、これらの機関に勤務する医師のバーンアウトのリスクは、2019年の調査対象者を上回り、とりわけ個人的達成感の低下が著しいことがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

サービス産業化の流れは、医師の働き方を一変させた。以前は看護職や介護職など患者や利用者との密な接触が求められる職種の典型的なストレスであったバーンアウトの事例が、医師など高度専門職の間で頻発している。さらに近年、女性医師の急増が、長く男性であることを暗黙の前提として運営されてきた医療現場の問題点を浮き彫りにしている。医師の労働環境、働き方の歪みは、そのサービスの質に直結する問題であり、対応が遅れば国民生活の質に重大な影響を与えかねない。本研究の目的は医師の働き方の現状を把握し、今後の医療政策に資するデータを提供することである。

研究成果の概要（英文）：A 2019 survey of physicians (1261 respondents) found that the risk of physician burnout was not due to workload, but to the fact that physicians did not find their work meaningful.

A pandemic due to COVID-19 occurred in the latter half of the research period, and the focus of the research was changed to the working environment of physicians under the pandemic. In a survey of 161 physicians working at COVID-19 priority healthcare institutions, the risk of burnout for physicians working at these institutions was higher than those surveyed in 2019, especially for lack of personal accomplishment.

研究分野：社会学

キーワード：バーンアウト 医師 COVID-19 ジェンダー 日本版バーンアウト尺度 ストレス 働き方改革 医療体制

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) わが国の医療制度は、高度専門職である医師の能力と倫理観の高さを前提に設計されている。しかし、近年のサービス産業化の流れは、公共サービスの形を一変させた。医療サービスもその例外ではない。パターンリズム的な医師 患者関係からフラットな関係に変わってきている。患者の生活に踏み込んだ医療・ケアを実現するために、医師はこれまで以上に幅広い目配りをしなければならなくなった。以前は看護職や介護職などクライアントとの密な接触が求められる職種の典型的なストレスであったバーンアウトの事例が、医師など高度専門職の間で頻発していることから、その労働環境や働き方に大きな変化があったと考えられる。

(2) 近年、女性医師が急増している。職務独占の資格制度のもとで運営されている医療専門職では、性別を問わず専門性の高さこそが評価の基準となるはずである。しかし、長く男性社会であった医師の現場では、男性であることを暗黙の前提として運営されてきた側面があり、女性医師とりわけ家庭を持つ女性医師にとっては(もちろん男性にとっても)職務を継続する大きな障害となっている。

2. 研究の目的

(1) 医師の労働環境、働き方改革、サービスの質の確保の課題を、ジェンダーの視点も含めた観点から分析し、その改善点を示すことであった。

(2) 研究期間後半に COVID-19 によるパンデミックが発生し、医療の職場環境は一変した。その影響を受けて、通常時の医師の労働環境の問題に加えて、パンデミック下の医師の労働環境、医療体制の問題についても合わせて検討することとした。

3. 研究の方法

(1) 2019 年実施の調査では、日本神経学会の会員を対象にインターネットを用いたアンケート調査を実施した(回答者 748 名)。調査項目は、回答者の基本属性についての項目、労働時間など労働負担についての項目、日本版バーンアウト尺度、仕事の有意義性、直接業務、間接業務の割合など日常業務についての項目などで構成した。

(2) 2021 年実施の調査では、COVID-19 重点医療機関に勤務する医師を対象にインターネットを用いたアンケート調査を実施した(回答者 161 名)。調査項目は、回答者の基本属性についての項目、COVID-19 の診療への関わりなど労働負担についての項目、日本版バーンアウト尺度、自由記述などで構成した。

4. 研究成果

(1) 2019 年実施の調査では、バーンアウトと、労働時間や夜間オンコール数、患者数といった量的な労働負担とのあいだに有意な関連は認められなかった。労働時間制限の効果調べた研究をレビューした論文によると、バーンアウトに有効であったのは 6 つの研究のうち 2 つのみと報告されている。また労働時間制限によって限られた時間内に同じ量の仕事をするプレッシャーが疲労とストレスを増加させたという報告もあることから、労働時間など量的負担の軽減だけではバーンアウト対策として不十分な可能性が示唆された。

(2) 2019 年実施の調査において、男性医師と女性医師の結果についての比較、検討をおこなった。勤務・生活状況では既婚者のみに男性医師と女性医師との間に有意な差が認められた。具体的には、労働時間など勤務状況では男性のほうが厳しい条件で勤務していること、家事分担では女性の負担が重いことが確かめられた。日本版バーンアウト尺度による分析では、全体の得点では男性医師と女性医師との間に有意な差は認められなかったが、バーンアウトと関連する要因については、男女に共通した要因(仕事の有意義感、年齢など)にくわえて、男性医師特有の要因(有能なスタッフの存在など)あるいは女性医師特有の要因(診療時間など)が明らかとなった。さらに、男性医師と女性医師の間で専門とする診療科を選択するうえでの意思決定プロセスに違いがあるとの示唆が得られた。

(3) 2021 年実施の調査では、日本版バーンアウト尺度の得点の平均値が、3 つの下位尺度すべてにおいて 2019 年調査の平均値よりも高かった(表 1 参照)。この結果から、COVID-19 重点医療機関に勤務する医師のバーンアウトのリスクが高まっていたことが推測できる。

(4) 2021 年実施の調査において、COVID-19 重点医療機関に勤務する医師のバーンアウトのリスクが高まった原因について検討する目的で、自由記述項目の内容を分析した。これらの医療

機関では、ほぼ全診療科の医師がそれぞれの専門診療をやめ（大幅に削減し）、COVID-19 入院患者の診療を担当することとなった。COVID-19 は指定感染症の 2 類相当であり、隔離が主な目的である患者も多く、入院患者の見守りが業務の中心となっていた。生成的コーディングにより抽出された複数の概念とその関連性の分析から、前述した環境の中で、医師がその職を継続していく拠り所となっている職務への強い使命感や達成感が損なわれていったことが、バーンアウトのリスクを高めた原因の一つであることが示唆された。

表 1 日本版バーンアウト尺度の平均値比較

	人数	情緒的消耗感		脱人格化		個人的達成感の低下	
		平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
2019年調査	748	2.86	0.92	2.21	0.85	3.17	0.77
2021年調査	161	3.02	1.03	2.55	0.96	3.55	0.91

< 引用文献 >

DeChant PF, Acs A, Rhee KB, et al. Effect of organization-directed workplace interventions on physician burnout: A systematic review. *Mayo Clin Proc Innov Qual Outcomes* 2019;3:384-408.

Morrow G, Burford B, Carter M, et al. Have restricted working hours reduced junior doctors' experience of fatigue? A focus group and telephone interview study. *BMJ Open* 2014;4:e004222.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 久保真人, 小寺志保, 井石秀明, 東海林裕, 下畑享良, 木村百合香	4. 巻 150
2. 論文標題 東京都 COVID-19 重点医療機関における医師の実態調査 自由記述の分析から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 2021-2025
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Shiho Kodera, Yurika Kimura, Yutaka Tokairin, Hideaki Iseki, Makoto Kubo, Takayoshi Shimohata	4. 巻 5
2. 論文標題 Physician Burnout in General Hospitals Turned into Coronavirus Disease 2019 Priority Hospitals in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JMA Journal	6. 最初と最後の頁 118-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.31662/jmaj.2021-0097	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Shimohata Takayoshi, Kubo Makoto, Aiba Ikuko, et.al.	4. 巻 61
2. 論文標題 Current and future strategies for burnout in Japanese neurologists	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Rinsho Shinkeigaku	6. 最初と最後の頁 89-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5692/clinicalneuroi.cn-001533	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Kubo Makoto, Aiba Ikuko, Shimohata Takayoshi, et.al.	4. 巻 61
2. 論文標題 Burnout in Japanese neurologists: comparison of male and female physicians	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Rinsho Shinkeigaku	6. 最初と最後の頁 219-227
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5692/clinicalneuroi.cn-001569	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 久保真人	4. 巻 268
2. 論文標題 バーンアウト（燃え尽き症候群）とは 概念と医師のバーンアウト	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 医学のあゆみ	6. 最初と最後の頁 533-535
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 久保真人
2. 発表標題 燃え尽き症候群の基本的知識と対策
3. 学会等名 第60回日本神経学会学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------